



電子カルテが保持する医療情報システムの 院外活用と安全管理

電子カルテは病院施設内(院内)での利用がほとんどとなっているが、院外でも活用できるシステムを新たに開発し、近年需要が増えている院外利用ニーズに応えていく。この新たな機能で、既に電子カルテのシステムを利用している既存客や、まだ利用していない新規客に対する商談での提案力アップを図り、売上拡大を目指すことを目的として開発に乗り出した。

1 本事業への取り組みの経緯

平成23年3月の東日本大震災という大規模地震災害が発生した際は、広範囲で電力の供給が途絶えた。病院内の照明はもちろん、各種設備・システムが動かなくなり、電子化が進んでいる医療の現場では電子カルテのバックアップシステムがなく、患者の診療データが消失したりデータの早急な利用ができなくなる事態が多く発生した。

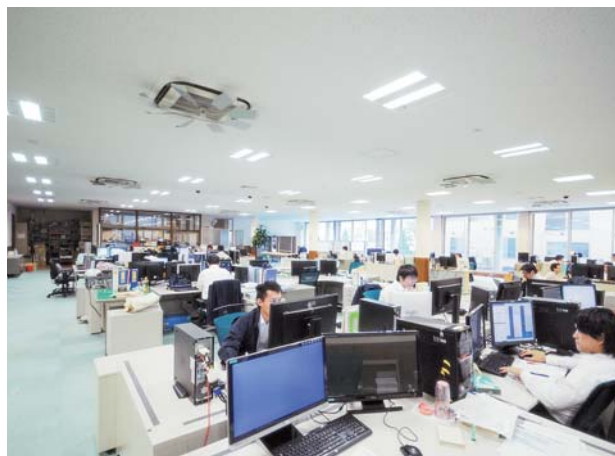
近年地震の他にも異常気象に伴う台風や水害のリスクも高まっており、医療データの外部バックアップシステムの必要性の認識が高まるなか、当社の電子カルテシステムを導入している顧客からもそういった声が寄せられていた。



2 実施内容

メインをバックアップシステムの開発に置き、さらにシステムの付加価値を高めるため訪問診療・訪問看護システム(在宅医療)、電子カルテの標準化データ出力システム、スマートデバイス(iPad)を利用した問診システムの4種類を開発した。バックアップシステムは電子カルテサーバーと院外バックアップサーバー間でデータを転送し、災害等の非常時でもバックアップデータの復旧や業務の継続ができるもの。

訪問診療・訪問看護システムは、在宅医療の際に、専用端末を使い院内と同じ環境での電子カルテ操作はもちろん訪問スケジュールなどの管理ができるシステムで、通信環境に左右されず利用できる。また、標準化データ出力システムは病院により異なる固有のデータを出力するシステムで、主に地域連携システムでカルテデータ公開での利用することを想定したものである。問診システムは従来紙の問診票がiPadで入力できるようになり、さらに電子カルテシステムのデータベースに反映ができるシステムとして開発した。



3 取組成果・波及効果

バックアップシステムは、既に実際の病院システムでの実証実験を行っており、利用者からの意見をヒアリングし、さらに改良を進めている。その他訪問診療・訪問看護システム、標準化データシステム、問診システムも含め、従来の自社電子カルテシステムにオプションとして装備することができるため、自社の電子カルテシステムを利用している既存客や、これから新規で導入を考えている先にも、機能性の点で他社との差別化が図れている。



医療ソリューション事業部
三戸 剛

今後の展望・活動予定は?

早急な対応を迫られる医療業界では、災害時などにシステムが継続して使用できることが重要になります。近年大規模な災害が頻発しており、被災された地域では、その必要性を実感していると思います。なお在宅医療など院外でのシステム利用のニーズも高まり、新たな開発に取り組みました。実証実験が終了後は、関東以西の各医療施設や病院などに本格的な営業を展開し電子カルテの既存客の継続・追加利用、新規顧客の開拓を進めていきます。

事業者

大新技研株式会社

代表者

大神 邦明

所在地等

〒859-3223 長崎県佐世保市広田 4-5-5

TEL 0956-39-1201

FAX 0956-38-6376

<http://www.daishin-giken.co.jp/>

hirate@daishin-giken.co.jp



設立年月

昭和49年 7月

資本金

4,999万円

業種

コンピュータソフトウェア・各種システム開発販売

従業員数

92名